

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。今年度も保護者・地域住民の皆様には学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていたるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部であり、また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であります。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には、学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は小学校6年生、中学校3年生は全国学習状況調査の結果です。（昨年、一昨年の結果は佐賀県小・中学校学習状況調査の結果を含む）

全国学力・学習状況調査は、知識・技能等と活用する力等を一体的に問う問題の調査となっています。

各学校のホームページには、学校ごとの分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、あわせてご覧ください。

令和3年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立（山内東）小学校

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	59.4 (0.94)	62 (0.95)	44.2 (0.85)	65 (0.94)
R3 正答率の全国比		0.96		0.93

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

1 国語科の結果について

6年生の全体の平均正答率は、全国と比べてやや低い結果であった。観点別に見ると、「思考・判断・表現」がほぼ全国と同じで、「知識・技能」が低い結果であった。「思考力・判断力・表現力」では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」は全国よりも少し高い結果であった。このことは授業の中で自分の考えを「書く」活動を意識的に取り入れてきた成果と考えられる。しかし「読むこと」においては、やや低い結果となった。特に全国と差が大きかった問題は、「文章全体の構成を捉え、内容の中心を把握する」であり、説明

文や意見文等の論理的な文章の読み取りの技能を高めていく必要がある。

2 算数科について

昨年の佐賀県12月調査との比較でみると、対県比0.85から0.94へと向上が見られる。しかしまだ全体の平均正答率は全国と比べて低い結果である。観点別に見ると、「知識・理解」「思考・判断・表現」ともに全国より低い結果となった。なかでも「思考・判断・表現」の方が、全国との差が大きい。内容別に見ると、「三角形の面積」では、全国よりも高い結果となっているが、「わり算の立式」や「速さ」の問題、「割合のグラフの読み取り」などが全国と比べて低い結果となっている。

【意識調査】

意識調査の結果では、「朝食を毎日食べている」「将来の夢や希望を持っている」「地域の行事に参加している」等が全国よりも高い傾向にあった。反面、全国よりも低い傾向にあったのは、「学校に行くのは楽しい」「国語の学習は好き」「算数の学習は好き」など、学習に関するものが多かった。また「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」なども低い傾向にあり、学習の楽しさやお互いの考えを伝えあう楽しさについて感じさせていく必要がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 西部型授業の充実を通して、主体的な学習態度を高めていくこと

- ・「めあて」や「まとめ」の提示、「ふりかえり」の設定など、全校で共通した学習過程を取り入れ、指導方法を改善する。
- ・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用し、「めあて」「まとめ」「書く活動」「話し合う活動」「ふりかえり」の5つを意識した授業を継続して実践し、児童の学力向上に努める。
- ・国語科では、論理的な文章の読み取りのための基礎基本を明確にして、各学年で重点事項を意識した指導を行う必要がある。
- ・算数科では、問題文を読んで、問題場面を具体的にイメージすることが不十分である。問題把握をしっかりさせるために、分かっていること、問われていることなどに、線やしるしを書き入れたり、図に表したりすることを全学年で取り入れる。授業の中で繰り返し指導し定着させる。

2 書く活動の充実と協働的な学習の充実

- ・西部型授業とも連携し、自分の考えをノートやワークシートに書く場を積極的に取り入れていく。書く際には、文章だけでなく絵や図、式など多様な表現方法に広げていく。
- ・書いたことを発表に生かし、グループや全体の場での練り合いを通して、それぞれの考えを高めていくことで伝え合う楽しさを育てていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 家庭学習の充実を図り、児童によりよい生活習慣や学習習慣を身につけさせる。

- ・各学年で家庭学習時間を設定し、生活チェックや学習時間やテレビ・ゲーム等の時間の記録を書いた「やまびこカード」の振り返りを通して、家庭学習の定着を図る。
- ・「学校だより」「八束穂」(学習部だより)を定期的に発行し、地域や保護者との連携を図る。
また、児童の家庭学習ノートを紹介し、保護者への啓発、家庭学習の充実を図る。

2 読書の充実

- ・家庭での読書を奨励し、読書も家庭学習の1つとして位置付ける。週末において、読書に取り組むよう声かけを行う。